

第5回 岳北地域の高校の将来像を考える協議会 次第

日時：令和元年8月28日(水) 10:00～

場所：飯山市役所 4階 全員協議会室

1 開 会

定刻になりましたので、第5回岳北地域の高校の将来像を考える協議会を開催します。
それでは次第に沿って進めさせていただきます。

2 あいさつ

足立 会長)

お疲れさまです。本日は第5回目の協議会となりますが、それぞれの委員さんの意見をまとめたところ、まず教育施設の面ですが、下高井農林高校の教育施設を残していくことが何より大事であるということ、次に教育の内容ですが、下高井農林高校を存続し、なおかつ、地域産業にあう人材育成のための教育をしっかりと、この地域の農林業振興が向上していく教育内容が必要だという、この2点で集約されたと思います。まず施設を無くさないことが大事ですし、その為には地域を担う人材育成をしっかりとしていくことが大事な点だと思います。

具体的にはどういうことが考えられるかですが、県教委からの今までの説明を受けまして、2つの形態が考えられるということであります。どうやってこの課題をクリアしていくのか、今日の資料の説明を聞いて、より見識を深めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

3 協 議

(1) 岳北地域高等学校の存続形態について

【資料】飯山市教育委員会教育部 常田部長より説明

足立 会長)

A 案について、内部の学科編成についてはわからない点もあるかと思いますが、推測ということでご理解いただければと思います。下高井農林高校には、新たな取り組みの1つということで専攻科とありますが、こちらは3年終了した後、希望者は4年目として実践的な学びをできるようにした学校を目指すということであります。実際に生産者のところで実施し、農業経営者としての経験も積んでいくということになります。専攻科は1年になるかと思いますが、例えば社会人や就農希望者、移住されてきた人の中で農業をやってみたい方がいると思います。今年も下高井農林高校の生徒が、そういう方々に農業指導をしたということですが、そういう人たちも含めて学びの場を設け、より幅広い教育機関という位置づけで、この地域の農林業の振興に起用できる高校にしようとの提案でございいます。例えば探究科・普通科の生徒が一般教養の勉強をする以外に、農業に関心のある生徒が選択的に農業の勉強ができるような形態ができれば、大変望ましいのかなと思います。

B 案についてですが、いわゆる分校化ということですので、飯山高校の分校という位置づけになるわけですが、県教委から説明していただいたとおり校歌や校章等は別々になり、今の下高井農林高校の規模が縮小されるが、分校ということで存続はできるようになります。心配な点は、在籍生徒数が60人以下の状態が2年連続した場合、廃校になるということです。今回のこの資料は初めて提示

させていただいておりますが、この時点でなにかご意見ありますでしょうか。

日墓 副会長)

下高井農林高校のキャンパスを残し、生かすために今回2案出いただきましたが、1つ条件とすれば、統合してそれぞれをキャンパスとした際に、県教委にはその状況をずっと維持していただくことが前提で必要なわけです。

今の下高井農林高校にある施設のことを考えると、今の飯山高校のところへ1か所にキャンパスを集めるというのは、物理的に不可能だろうと思います。もしやるとすれば、地域として人材を育てることができない、つまり、全て普通科という形になってしまうということで、大前提となっている地域の人材を残すということであれば、県の方も今ある下高井農林高校のキャンパスをしっかりと活用してくれと推していただきたい。

なおかつ、リカレント教育といいますか生涯学習で、働き方改革の中で新たな職業を選択する場合の学習をする場所を勧めていくということであれば、県としてもやはり、新たに農業をやっていきたいという人の受け皿として受け入れることによって、今あるキャンパスの付加価値が高まってくのかなと思います。県としての立場を示していただければありがたいなと思います。

荻原 ながの農協組合みゆき地区担当副組合長)

ここまで議論していただいて、そろそろ落としどころかなと思っていましたが、まだまだ見えてこないなど。木島平村村長さんの話を聞いて、なるほどと思っていたところです。

石澤 栄村教育長)

質問よろしいでしょうか。キャンパス化については説明していただきよくわかったのですが、中山間地存立特定校という選択肢がもう一つあるかと思います。それは基準のどれに適合しないのか、適合するのであれば、選択肢の中に入れて検討したほうがいいと思うのですがどうでしょうか。

県事務局)

基準が3つありまして、

ア)県境に近い地域で、近隣の高校と著しく離れている。

イ)教育機会の確保の観点から高校の存続の必要性が高いと判断できる。

ウ)所在する市町村等、地域からの支援を得ながら、高校を単独で存続する体制を整備できる。

この3点全てを満たしていると中山間地存立特定校としての指定を検討するということになっております。

石澤 栄村教育長)

今回の場合は、飯山高校は普通科、下高井農林高校は農業科と専門性があり、①の近隣の高校と著しく離れているというのは、普通科どうしであれば該当するかと思いますが、総合学科等の高校があった場合はこの基準に該当するのかわからないのか、見解をお聞きしたいと思います。

県事務局)

校種云々は書いてありませんので、近隣の高校の科は関係ないということになります。

石澤 栄村教育長)

では今回の場合は、中山間地存立特定校としての指定は受けられないということでよろしいでしょうか。

県事務局)

必要に応じて検討するとなっておりますが、基準等見る限り、当てはまらないかなと思います。

石澤 栄村教育長)

そうしますと今回の場合は、基準ア)がネックになるという判断でよろしいですか。

県事務局)

そういうことになります。

小林 木島平村教育長)

よろしいですか。今ア、イ、ウの説明がありましたが、ウの中で地域からの支援を得ながらとありましたが、支援というのは財政的な支援と解釈してよろしいですか。白馬村も支援しているかと思いますが、そういった支援がないと特定校には一切当てはまらないということではよろしいでしょうか。

県事務局)

支援を得ながらとなっておりますが、それが財政的支援なのか人為的な支援なのかという部分につきましては、相談の中でどういう支援が受けられるかを判断して考えるということになります。

足立会長)

ほかにいかがでしょうか。

横澤 下高井農林高校校長)

当事者として、学校の意見を述べさせていただきます。第2回の会議で本校の現状を説明させていただきまして、将来地域に残って社会を支えていく生徒の支援をしたい、学習を通じて農業に限らず地域振興に貢献したいというのが本校の使命だと思っております。また、この岳北地域に普通教育だけでなく、職業教育を学ぶ場もなくはないと思っております。

そのために本校では、今まで蓄積してきた教育遺産をさらに発展させて、今ある2学科の体制から地域振興を中心にした新しい教育内容に改革し、学校の魅力を高め、志願者を増やすことが急務であり、校内でも議論されています。

私が危惧しているのは、本校の農業科の教育活動が将来ずっと保障されるかということです。統合した場合、校内での学科事情により、農業科が必ず存続されるという保障はありません。この地域全体の多様なニーズを考えたときに、ある程度独自性を持ち、小回りが利いて主体的な運営ができる分校化が本校には適当かなと考えております。この地域全体のニーズにどうやって答えていくかを委員の皆さんにご意見いただいて、今後の参考にさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

長瀬 飯山市教育長)

質問よろしいでしょうか。統合した場合に農業科がなくなるというのはどういうことでしょうか。私たちの考えでは、統合したら絶対に農業科は残すということになっていると思っておりますが。

横澤 下高井農林高校校長)

それにつきましては、こういった場で意見をお聞きしてということではなく、学校の中の科のバランスや募集状況によってはあり得るかと思えます。

長瀬 飯山市教育長)

あり得るというのは、学校サイドで決めるということでしょうか。

横澤 下高井農林高校校長)

そうです。学校サイドで生徒が集まらない際に募集の停止することはあり得ます。しばらく経って、校内で学校の将来像を考えたときに、この学科は募集を停止してもう1つの学科のみ募集するという可能性があり得るということです。

長瀬 飯山市教育長)

それは学校独自で決めることができるのですか。

横澤 下高井農林高校校長)

県とも協議はしますが、ある程度校内の事情で判断することになるかと思います。

長瀬 飯山市教育長)

もし県がダメと言えば、学校が募集をやめようと決めても募集停止にはならないですよ。

横澤 下高井農林高校校長)

絶対に募集停止にならないという保障はありません。

長瀬 飯山市教育長)

そうすると、今私たちが一番下高井農林高校を残そうとしている方法が、どっちに転んでも残らないという、全く別の課題がでてきてしまうということになるのと思うのですが。

横澤 下高井農林高校校長)

普通科・探究科・スポーツ科・農業科とあった場合に、将来そのままの人数で維持できず、減った場合にどう考えるかというのは、校内で話すことになるかと思われます。

長瀬 飯山市教育長)

飯水地区にとって、農業科が絶対大事だから残すという大前提で、県教委がこれから話を決定して進めれば、下高井農林高校は残すということに繋がりますよね。今までの会議と全く話が変わってきてしまうのではないのでしょうか。

横澤 下高井農林高校校長)

統合となるとそうなるので、私は分校化を勧めたいと思っています。

足立会長)

他にいかがでしょうか。

高橋 飯水中学校長会長)

資料にある専攻科というのが、すごく魅力があるなと思いました。ただ、1年ということになってしまうと、卒業の資格は高校卒業と同じになってしまうかなと。例えば、子どもたちが実際の現場で実習を2年間やって、短大卒業程度になるのかは分かりませんが、そういう考えもいいのではと思いました。

これまでの会議の結論からいうと、この岳北地域の子どもたちが多様な選択肢を選べるようにするには、農林科はなくしてはならないと思います。ただ、分校化した際に、2年連続で在籍生徒数が60人以下の状態になった時に廃校というのはショックです。全体の生徒数が減ってきている中で、2年連続60人以下の状態が続いたから、この地域には農林科はなくしますよというのは極論すぎるのではないかというのが率直な意見です。

小林 木島平村教育長)

県に意見をあげる際には、必ず地域に農業科を残す前提というのが重要かと思います。県の方での資料の中に再編計画の方向として、「学校規模のさらなる縮小が想定される中においても、中学生の期待に応える普通教育と専門教育の学びの場を確保していく必要がある」というこの県の方針を、ずっと続けていくというのが大事だと思います。

長瀬 飯山市教育長)

もう一度県教委に聞きたいのですが、先ほど横澤先生が言っていた件について、統合して生徒が来なかったら廃止するというのは有りですか。

県事務局)

人口統計の数字を見させてもらうと、2033年のこの地域の中学卒業予測数は169名となります。すぐどうこうということはないかと思いますが、横澤先生の意見としては、生徒数が減っていく中で統合となると、4科目が将来的に続けていくのが難しいのではないかとということかと思っています。

県教委としましても、下高井農林高校の農業の学びの場は、この地域として重要であると思っておりま

若林 中野・下高井中学校長会代表)

今年の中学生の進路を考えると、先輩たちに来てもらう機会があって、長野吉田高校・飯山高校・下高井農林高校の生徒に話をしてもらったのですが、吉田高校と飯山高校の生徒は、大学進学に向けてこんなことをやっているよとか、今こんなことをやっておくといいいよという説明をしていて、下高井農林高校の生徒は、今学校でこんな楽しいことをやっているよとか、これからこんな仕事に就こうと思っているよという話をしてくれて、高校によって話が違うんだなと感じたのですが、それぞれの子どもたちに選択肢があっていいなと思いました。

足立会長)

農業者の方にも話を聞きたいと思います。

塩崎さん 飯山市農業関係者)

私は下高井農林高校を卒業しましたが、すぐに就農はしませんでした。正直、高校の卓上で学んだことは全く身につけていません。さらに県外や県内で果樹の勉強をさせていただいて、だんだんと自分の進路を決めていくことになりました。僕が中学校の時にはバレーやスキーをやっており、自分が受験して受かる高校はどこかという下高井農林高校しかなく、高校では3年間楽しく過ごさせてもらって、その中で進路を決めていきました。職業高校に行き、自分の進路をすごく広く見ることができたことが一番よかったと思います。それから外に目を向けて色々と勉強してきて、今の自分があり、親からの指導もあり、今の仕事にものすごく満足しています。

今は学歴社会だと思いますが、自分の子どもが長野の方の高校に進学しまして、何故飯山の高校ではないのか聞くと、飯山では世間が見えませんと自分で考えて長野の方の高校に行きました。

一番下の子どもは、飯山高校に行きたいが学力に自信がないし、父さんの仕事を継ぎたいから下高井農林高校に行きたいと考えていて、今がんばっています。

上手くまとまりませんが、キャンパス化も分校化もそれぞれいいところがあるので、正直それぞれの良いところだけとれるいい策はないものかと思っています。

小松さん 木島平村農業関係者)

農林高校があって農業をやりたいという子が今どれだけいるかが分からないし、飯山高校は難しいから下高井農林高校に行こうと将来に向けて選択する子もいると思います。今の下高井農林高校を残すということであれば、地域でお金等の支援をしていただき、農業に関してこういうことができるよという大きなビジョンを立てて、中学生に発信していくことが大事かなと思いました。

生徒についてはこの地域はもちろん、例えば下宿や寮の完備をして他から生徒を集められるような体制を整備するのはいかがかなと思います。この地域に人が集まってくるような仕掛けをしていければいいかなと思いました。

足立会長)

時間の都合もありますので、ここで(2)両校に望まれる学びの姿について移りたいと思います。

(2) 両校に望まれる学びの姿について

足立会長)

高校の校長先生に意見を伺いたいと思います。

林 飯山高校校長)

私も迷う部分ではありますが、例えばスポーツ科でスキーをやっている地元の生徒にとっては、スポーツ科でスキーに専念できるというのはとてもいい環境だと思うので、なかなか無くすわけにはいかないと思いますし、うちには探究科・スポーツ科学科・普通科とありますが、中学生が何を望んでいるのか、自分の進路を見つけるためにどんな科があるのが中学生にとっていいのかと考えております。

また、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定されておりますので、色んなことができるわけではありますが、A 案にしろ B 案にしろ、メリットデメリットがあって、一概になにが一番いいのかというのが悩ましいですが、やっぱり一番はこの地域の生徒の選択肢が狭まらないようにしなければとは思っています。

足立会長)

他にご意見ありますでしょうか。

石澤 栄村教育長)

県教委に確認をしたいのですが、今回2通りの案をお示しいただいて、分校の場合は在籍生徒数2年連続で60人以下になると募集停止になり廃校とありますが、キャンパス化の場合は、それは適用されないということでよろしいでしょうか。

県事務局)

そのとおりです。キャンパス化の場合廃校はないですが、他の科もそうですが志願者が少なくなれば募集停止ということは考えられます。

石澤 栄村教育長)

募集停止にしたが、その学科を希望する学生が出てきた場合、募集を再開するということはある得るということでしょうか。

県事務局)

それは基本的にはないかと思います。一度科をなくしてしまうと、再び戻すということとはできません。再募集はないということになります。

足立会長)

他にいかがでしょうか。

中山 北信州森林組合 代表理事組合長)

よろしいでしょうか。北信州森林組合にも下高井農林高校卒業の生徒が何人か来ていただいています。専門性を持った高校でもあるし、将来的にも必要ではないかと思います。ただ、今教えているものと会社で求められているものとは、レベルがたいぶ違いますので、指導していただく先生方のレベルも合わせて、子どもたちにとって魅力ある高校としていけるような環境を作っていくことが大事なのではないかと思います。

いずれにしても、子どもが将来少なくなっていく現実をしっかり捉えていかなければと思います。

足立 会長)

今の中山さんの話が今日皆さんと論議した結果の過程かなと思います。

他に特になければ時間でもありますので閉めさせていただきます。よろしいでしょうか。

今日皆さんからご意見を頂戴しました様々な課題、それから子どもたちにとって魅力ある教育内容にできるようにするにはということですが、本日初めて2案提案させていただきましたので、今日の論議を踏まえて、それぞれの委員さんの立場で検討を深めていただければと思います。県教委の方には、今年中に意見を提出すればいいので、まだ時間がありますのでしっかり考えていただいて、我々の要望をまとめてこの地域にとって悔いのない選択をしていかなければと思います。次回またご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは本日は閉会とさせていただきます。

4 その他

・ 次回開催日程について 9 月 24 日 (火) 午前10時～

5 閉 会